

# まちのアルバム

## 熱き感動のドラマを子供達に

野洲ジュニアソフトテニスクラブは、国や滋賀県、旧野洲町から、ソフトテニスを通して地域のスポーツ振興を図りたいという依頼を受け、平成10年に設立されました。

田中靖雄代表（小堤）を中心に「ソフトテニスを通して人間形成を」という大きなテーマのもと、選手の成長を考えながら小・中学生への一貫した指導を実施。

その指導に応え、選手の皆さんは、数多くの全国大会に出場し優勝、また多くの選手がJOC強化指定選手に選出されるなど輝かしい成績を収めてこられました。

同クラブは、名門テニスクラブとして全国的に知られていましたが、このたび、3月末をもって惜しくも解散されることとなり、24年間の歴史に幕を閉じられました。

長年にわたりソフトテニスの発展と選手育成にご尽力いただきありがとうございます。

▼3月5日 シライシアター野洲



▲田中代表へ感謝の気持ちを込めた花束を手渡す選手たち



◀これまでの大会で獲得されたトロフィー（一部）

## 歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

⑫

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

### 野洲出身の力士 蔵間

— 生誕70年記念 —

本年は、野洲市野洲出身の力士だった蔵間龍也（1952～1995年）の生誕70年となる記念の年です。

蔵間は中学・高校では、柔道やラグビーで鍛え、昭和43（1968）年に時津風部屋に入門しました。同年の大相撲秋場所（東京）で初土俵を踏みました。

身長180センチ、体重130キロ（幕内当時）、左四ツ・寄り・上手投げなどの技を得意とする実力派で、幕内在位62場所、最高位は関脇（横綱・大関に次ぐ、上から3番目の階級）でした。

昭和53（1978）年10月12日には、野洲駅前の野洲町農協西横特設会場（現・野洲文化ホール敷地）で巡業「蔵間関出世・大相撲野洲場所」が開催され、故郷に錦を飾りました。

平成元（1989）年の秋場所（東京）を最後に引退し（37歳）、鋸山親方として後進の指導にあたりました。同2（1990）年に廃業し、タレントとして活躍していましたが、平成7（1995）年に42歳で亡くなりました。

博物館では、生誕70年を記念して、蔵間の化粧まわしや手形など、ゆかりの館蔵品を紹介していますので、ぜひご観覧ください。（博物館学芸員 齊藤慶一）



蔵間の手形(当館蔵)

■特集陳列「野洲出身の力士 蔵間 — 生誕70年記念 —」

開催中～5月24日（火）

※期間中の休館日：月曜日、5月6日（金）

※市民は入館無料

（運転免許証やげんきカード等をご提示ください。）

※市ホームページ等で事前に開館状況をご確認の上、ご来館ください。